

Elastic Compute Service (ECS)

クイックスタート

クイックスタート

概要

概要

クイックスタートの概要部分では、操作手順、目的、対象ユーザーを説明します。

操作手順

ECS インスタンスを購入して使用するには、一般的に以下の手順に従います。

1. 設定の選択
2. インスタンスの作成
3. インスタンスへのログイン
4. Linux の場合、データディスクのフォーマットとアタッチ。Windows の場合、データディスクのフォーマット。

クイックスタートの目的

このクイックスタートでは、インスタンスの作成、インスタンスのリモート接続、データディスクのフォーマットとアタッチの方法を説明します。インスタンスの購入と作成のワンストッププロセス、リモートログイン、迅速な環境デプロイメントの手順を学びます。

Elastic Compute Service (ECS) インスタンスは、Alibaba Cloud Elastic Compute Service、Elastic Compute Service、または ECS と呼ばれることもあります。誤解を防ぐため、このドキュメントでは **Elastic Compute Service (ECS) インスタンス (以下省略: インスタンス)** という用語を使用します。

対象ユーザー

このクイックスタートは、インスタンスを作成したいユーザーを対象としています。

API を使用するユーザーは、API のドキュメントを参照してください。

ステップ 1. 設定の選択

ステップ 1. 設定の選択

Alibaba Cloud では、ユーザのニーズに合わせ、下記のような構成案を推奨しています。

- **エントリレベル**: CPU 1 コア、メモリ 1 GB、帯域幅 1 Mbps、ネットワークトラフィックが比較的に少ない個人サイト向け
- **高度**: CPU 1 コア、メモリ 2 GB、帯域幅 1 Mbps、シンプルな開発環境、コードベースの Web サイト向け
- **汎用**: CPU 2 コア、メモリ 4 GB、帯域幅 1 Mbps、エンタープライズ運用向け、並列コンピューティングアプリケーション、一般的なデータ処理
- **プレミアム**: CPU 4 コア、メモリ 8 GB、帯域幅 1 Mbps、高いコンピューティングパフォーマンスが求められるサービスに対応 (エンタープライズ向けの運用、バッチ処理、分散解析、アプリケーションなど)

これらの推奨された構成体系は、ECSの使用を開始するときのみ参考になります。サブスクリプション・ユーザーの場合、使用中に構成が過度に高くなったり低くなったりする場合は、いつでも構成を変更して構成スキームをアップグレードまたはダウングレードすることができます。

構成を確定後、ECS インスタンスの作成を開始できます。

ステップ 2. インスタンスの作成

このドキュメントでは、既存のイメージを使用して ECS インスタンスを作成する方法を説明します。システムディスクのスナップショットからカスタムイメージを作成し、そのカスタムイメージを使用して ECS インスタンスを作成する場合は、Elastic Compute Service (ECS) の『ユーザーガイド』で「カスタムイメージを使用したインスタンスの作成」を参照してください。

前提条件

ECS インスタンスの作成を開始する前に、次のタスクを完了してください。

- 「Alibaba Cloud にアカウント登録」します。
- 支払い方法を追加します。
- VPC ネットワークの ECS インスタンスを作成するには、VPCとVSwitch の作成します。
- クラシックネットワークの ECS インスタンスを作成するためのビジネスニーズを満たすルールを持つ、セキュリティグループを作成します。

ネットワークでのユーザーエクスペリエンスを向上させるため、Alibaba Cloud では 2016 年 6 月 16 日午前 12 時 (UTC+8) から、VPC ネットワークがデフォルトネットワークタイプとして設定されたデフォルトの VPC ネットワーク方針が開始されました。お客様のリージョンで切り替えが開始されていない場合は、クラシックネットワークの ECS インスタンスを引き続き作成できます。それ以外の場合、VPC ネットワークが唯一のオプションです。

- キーペアを使用して認証された Linux インスタンスを作成するために、SSH キーペアの作成します。
- スタートアップ動作のカスタマイズ、またはカスタムデータの引き渡しのためにインスタンスカスタムデータを作成します。

手順

次の手順に従って ECS インスタンスを作成します。

[ECS 管理コンソール]にログインします。

左側のナビゲーションバーで **[インスタンス]** をクリックします。

[インスタンスリスト] ページで **[インスタンスを作成]** をクリックします。

購入ページで **[スターターパッケージ]** を選択できます。これは主に新規ユーザーを対象にしています。このパッケージの詳細については、こちらを参照してください。このセクションでは、**[エキスパート向け]** オプションを使用して ECS インスタンスを作成する方法を説明します。

- [支払い方法の選択]:** インスタンスの課金方法として、**[サブスクリプション]** または **[従量課金]** を選択できます。両方の課金方法の違いについては、『購入ガイド』の「ECS インスタンスの購入」を参照してください。

[リージョンとゾーンの選択]: インスタンスの作成後にリージョンおよびゾーンを変更することはできません。リージョンおよびゾーンを選択するときは、次の点に留意してください。

- 一般的に、インスタンスが存在するリージョンがお客様の顧客に近ければ、顧客がサービスを利用するときのネットワーク待ち時間が短くなり、ダウンロード速度が高速になります。
- 一部の機能 (ゾーンの数、インスタンスタイプ、ストレージタイプ、ネットワ

- ークサービスの価格など) はリージョンによって異なります。ビジネスニーズに応じて適切なリージョンを選択してください。
- iii. 中国本土以外のリージョンの ECS インスタンスは、Linux と Windows システムの入れ替えには対応していません。
 - iv. アプリケーションの複数のインスタンスを作成する場合は、次の点に留意してください。
 - ネットワーク待ち時間が少なくなければならない場合は、同じゾーンにインスタンスを作成することをお勧めします。
 - ディザスタリカバリに関して高い要件がある場合は、1 つのリージョン内の異なるゾーンにインスタンスを作成することをお勧めします。
 - v. 異なるリージョンにあるインスタンスはイントラネット経由で互いに通信することはできません。

[インスタンスタイプ]: インスタンスタイプの可用性はリージョンによって異なります。各インスタンスタイプのシナリオについては、[プロダクト紹介](#)の「インスタンス世代とインスタンスタイプファミリー」を参照してください。

- i. I/O 最適化インスタンスは、SSD クラウドディスクと共に使用するとストレージパフォーマンスが向上します。
- ii. Web サイトの構築と Web 環境のデプロイメントに Windows OS を使用するためには、**2 GB 以上**のメモリを持つインスタンスタイプを選択する必要があります。
- iii. また、CPU 1 コア、メモリ 1 GB のインスタンスタイプでは、MySQL の実行ができません。

以下を含む [ネットワークタイプの選択]:

- i. [ネットワークタイプ]: デフォルトでは、ネットワークタイプは Virtual Private Cloud (VPC) になります。独自の VPC と VSwitch を選択できます。独自のものがいない場合は、デフォルトの VPC と VSwitch を使用します。

[クラシックネットワーク] を選択できる場合は、ビジネスニーズを満たすセキュリティグループを作成する必要があります。
- ii. [ネットワーク課金タイプ]: [データ転送] による課金です。この課金方法では、料金はインスタンスに毎時間転送されるデータ量によって決まります (通常は GB で計算)。
- iii. [ネットワーク帯域幅ピーク]: トラフィック量の突発的な急増による高額請求を回避するために、インスタンスのピーク帯域幅を指定することができます。

ネットワークタイプ	インターネットアクセスが必要	ネットワーク帯域幅ピーク
VPC	はい	• EIP

		(Elastic IP) アドレスを使用しない場合は、ピーク帯域幅を 0 以外の値に設定すると、インターネット IP アドレスはインスタンスにバインドされます。アドレスを変更またはバインド解除することはできません。 • EIP (Elastic IP) アドレスを使用する場合、ピーク帯域幅を 0 Mbps に設定できます。
	いいえ	ピーク帯域幅を 0 Mbps に設定します。
クラシック	はい	ピーク帯域幅を 0 以外の値に設定します。インターネット IP アドレスがバインドされ、帯域幅の変更またはバインドの解除ができません。
	いいえ	ピーク帯域幅を 0 Mbps に設定します。

Server Load Balancer インスタンスの背後に ECS インスタンスを配置した場合、ECS インスタンスの帯域幅を購入する必要はありません。ただし、接続して管理タスクを実行するために、ECS インスタンスに対して少量の帯域幅を購入することをお勧めします。

[オペレーティングシステムの選択]。

- i. **[パブリックイメージ]**: Alibaba Cloud によって正式に提供されるオペレーティングシステムのイメージを含みます。これに加えて、特定の要件に基づいて関連ソフトウェアをインストールし、アプリケーション環境を設定する必要があります。
- ii. **[カスタムイメージ]**: ユーザーのシステムのスナップショットに基づいて生成され、初期システム環境、アプリケーション環境、および関連するソフトウェア設定を含みます。カスタムイメージを選択して ECS を作成することにより、反復設定の時間を節約できます。
- iii. **[共有イメージ]**: Alibaba Cloud アカウントで共有されるカスタムイメージです。Alibaba Cloud はこのような共有イメージの完全性とセキュリティを保証できないため、共有イメージの使用に関連するリスクについてはお客様の責任になります。ご了承ください。
- iv. イメージを選択する際には、次の点に注意してください。
 - すべてのイメージがインスタンスカスタムデータに対応しているわけではありません。対応しているイメージについては、「インスタンスカスタムデータ」を参照してください。
 - **Windows OS に基づくイメージ。**
 - デフォルトでは、Windows 2008/2012 システムで許可されるリモート接続は 2 セッションまでです。接続数を増やすには、別途お客様の費用負担で Microsoft からリモートデスクトップライセンス (RD ライセンス) サービスを購入する必要があります。
 - .net などの Windows プログラムを実行する場合に適しています。
 - Windows OS は SQL Server などのデータベース (別途インストールする必要があります) に対応しています。
 - **Linux OS に基づくイメージ:**
 - Linux OS は、堅牢なセキュリティと安定性を備えた、最もポピュラーなサーバーオペレーティングシステムです。
 - Linux OS は高パフォーマンスの Web サーバーおよびその他のサーバーアプリケーションに適していて、PHP や Python などの一般的なプログラミング言語のほか、MySQL などのデータベース (別途インストールする必要があります) にも対応しています。
 - CentOS をお勧めします。

- SSH キーペアは Linux OS でのみサポートされます。

[ストレージの選択] システムディスクまたはデータディスク用のクラウドディスクを選択する必要があります。

- クラウドディスクのタイプはリージョンによって異なります。クラウドディスク機能の違いについては、「ディスクパラメーターとパフォーマンスのテスト」を参照してください。
- [システムディスク]** は必須です。これは、オペレーティングシステムをインストールするためです。
- [データディスク]** は省略可能です。ここで追加するデータディスクはインスタンスと共にリリースされ、インスタンスからデタッチすることはできません。独立してクラウドディスクを作成することができます。
- ビジネスニーズに基づいて、最大 16 のデータディスクを空のまま追加するか、スナップショットから追加できます。

i1、d1、d1ne など、エフェメラルストレージを持つインスタンスタイプを選択した場合、エフェメラルストレージの設定がこのセクションに表示されます。設定を変更することはできません。インスタンスタイプのエフェメラルストレージの詳細については、[プロダクト紹介](#)の「インスタンス世代とインスタンスタイプファミリー」を参照してください。

[セキュリティ設定] オペレーティングシステムに基づいて認証方式を設定できます。

オペレーティングシステム	認証方式
Linux	SSH キーペアまたはパスワード
Windows	パスワード
- 今すぐ認証方式を設定するか、後で設定する 2 つの選択肢があります。 - 後で認証方式を設定する場合は、インスタンスの作成後、ECS コンソールでパスワードをリセットするか、SSH キーペアをバインドします。	

[Set User Data] (省略可能)。インスタンスタイプとイメージがインスタンスカスタムデータの要件に合っている場合は、データを追加できます。

[購入プラン]。以下を設定する必要があります。

- [サブスクリプションタイプ]**: サブスクリプション課金方式の ECS を作成する場合、**[サブスクリプションタイプ]** を **[1ヶ月]** または **[1年]** に設定する必要があります。有効期限後に手動でインスタンスを更新する場合は、**[自動更新]** を選択して自動更新を有効にします。詳細については、『[購入ガイド](#)』の「**自動更新**」を参照してください。
- [インスタンス名]**: 効率的な管理のため、インスタンスの名前を指定すること

をお勧めします。

- iii. **[台数]**: 従量課金方式で同時に作成できるインスタンス数は最大 10 ですが、サブスクリプション課金方式のインスタンスにクォータはありません。

[概要]。概要とコスト情報を確認して、選択した設定の詳細が正しいことを確かめます。

[カートに追加] (購入を続ける場合) または **[今すぐ購入]** (購入内容を確認する場合) のいずれかをクリックします。

[注文の確認] ページで注文情報を確認し、次の操作を行います。

- i. サブスクリプション課金方式のインスタンスの場合は、**[注文]** をクリックし、支払いを行ってから、インスタンスを有効にします。
- ii. 従量課金方式のインスタンスの場合は、**[有効化]** をクリックし、インスタンスを有効にします。

インスタンスが有効になったら、ECS コンソールに移動してインスタンスの詳細 (インスタンス名、インターネット IP アドレス、内部 IP アドレス (クラシックネットワークの場合)、またはプライベート IP アドレス (VPC ネットワークの場合)) を確認できます。

ステップ 3. インスタンスへのログイン

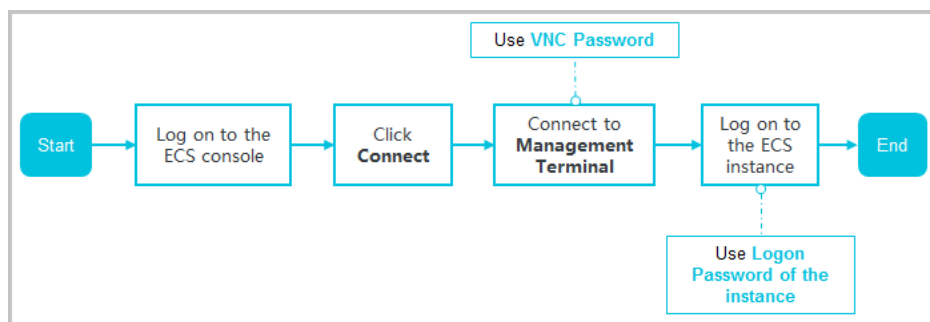
Alibaba Cloudでは「**マネージメントターミナル**」を提供しており、たとえインターネット接続用の帯域を購入していなくてもウェブブラウザでECSインスタンスに接続できます。

他の方法でもECSインスタンスに接続できます。

- Linuxインスタンスへの接続はWindowsからはSSHクライアントを使用し、LinuxまたはUNIXからはSSHコマンドを使って「SSH キーペア」や「パスワード」認証で接続できます。
- Windowsインスタンスへの接続は「ローカルコンピュータからアクセスするためのツール」を参照してください。

操作手順

次のフローチャートはウェブブラウザを使っのECSインスタンスへの接続方法を表しています。



ウェブブラウザを使っのECSインスタンスへの接続は次の手順に従ってください。

[ECSコンソール] にログインします。

左ペインの[インスタンス]をクリックします。

リージョンを選択します。

インスタンスリストで該当するインスタンスを探し、右横にある[アクション]の[VNC]をクリックします。

次に「マネージメントターミナル」への接続方法をご説明します。

- 初めて「マネージメントターミナル」にログインする場合は次のステップへ

- [VNC接続パスワード]のダイアログボックスが表示されますのでパスワードをコピーします。

パスワードは一回しか表示されませんので、直ちに記録した後、厳重に保管してください。もし新しいパスワードが必要になった場合は「パスワードの変更」を参照してください。

- [閉じる]をクリックして [VNC接続パスワード]ダイアログボックスを閉じます。
- [VNCパスワードを入力]ダイアログボックスで先ほどコピーしたパスワードを入力してからOKを押してダイアログボックスを閉じます。

「マネージメントターミナル」への接続が初めてではない場合、[VNCパスワードを入力]ダイアログボックスにパスワードを入力してから[OK]を押してダイアログボックスを閉じます。

パスワードを紛失したり忘れた場合は次の手順のように行ってください。

- パスワードの変更.
- 「マネージメントターミナル」の上部左側にある[リモートコマンドの送信] > [管理端末に接続]を選択する。

- c. **[VNCパスワードを入力]**ダイアログボックスで新しいパスワードを入力してから**[OK]**を押してダイアログボックスを閉じます。

ECSインスタンスにログインするにはオペレーティングシステムに従って次のように行います。

- Linuxインスタンスにログインする場合はユーザ名とパスワードを入力してください。
 - インスタンスのログインパスワードを紛失した場合は「パスワードのリセット」を参照してください。
 - ログインパスワードは入力時には見えません。
 - インスタンス内で別の操作を行いたい場合は「**マネージメントターミナル**」の左上部にある**リモートコマンドの送信** > **CTRL + ALT + Fx**を選択します。(Fxは**F1**から**F10**までのどれかを割り当ててください)
 - 黒い画面が表示されている場合、システムは休止状態です。いずれかのキーを押して復帰させてください。
- Windowsインスタンスにログインするには「**マネージメントターミナル**」の左上部にある **リモートコマンドの送信** > **CTRL+ALT+DELETE** を選択します。Windowsのログイン画面が表示されますのでユーザ名 (**Administrator**) とパスワードを入力してください。

インスタンスのログインパスワードを紛失した場合は「パスワードのリセット」を参照してください。

VNC接続用パスワードの変更

VNC接続用のパスワードを紛失した場合は次の手順によりパスワードの変更してください。

注意: I/O最適化されていないインスタンスに接続している場合、パスワードの変更を反映されるためにはインスタンスの再起動が必要となります。再起動にはインスタンスの停止と業務の中断が伴いますので、パスワードの変更には十分注意してください。

「**マネージメントターミナル**」ページを開く。

[VNC接続パスワード]ダイアログボックスまたは**[VNCパスワードを入力]**ダイアログボックスを閉じる。

「**マネージメントターミナル**」の右上部にある**[管理端末のパスワードの変更]**をクリックします。

新しいパスワードを入力します。パスワードには大文字、小文字、数字を含む長さ6文字(特殊文字はサポート外)

新しいパスワードを反映させます。

- I/O最適化されているインスタンスでは新しいパスワードの変更は即時反映されます。
- I/O最適化されていないインスタンスではECSコンソール上でインスタンスの再起動を行ってください。インスタンス内で直接再起動を行っても新しいパスワードは適用されません。

データディスクのフォーマット

LINUXデータディスクのフォーマットとアタッチ

インスタンスの作成時にデータディスクを選択した場合、インスタンスへのログイン後に、まずデータディスクのフォーマット、次にデータディスクのアタッチが必要になります。

サービス要件に基づいて、複数のデータディスクパーティションを設定することもできます。パーティション分割には、システムに組み込まれているツールの使用をお勧めします。

注意: ECS では、データディスクのみパーティション分割できます。システムディスクパーティション分割はできません (Windows および Linux OS)。サードパーティツールを使用して無理にシステムディスクのパーティション分割を行うと、システムのクラッシュやデータの損失など、予測できないリスクを招く可能性があります。

この操作は、**I/O が最適化されていない、SSD クラウドディスクの Linux** (Redhat、CentOS、Debian、Ubuntu) インスタンスに適用されます。

データディスクのフォーマットとアタッチを行うには、次の手順を実行します。

1. リモート接続ツールを使用します。ユーザー名 **root** と適切なパスワードを使用して、インスタンスにログインします。

fdisk -l コマンドを使用して、データディスクを表示します。**注意:** データディスクのパーティション分割とフォーマットを行うまで、**df -h** コマンドを実行してデータディスクを表示することはできません。次の例では、5 GB のデータディスクをアタッチする必要があります。

fdisk -l コマンドの実行後に **/dev/xvdb** が見つからない場合は、インスタンスにデータディスクがないことを示しています。このため、アタッチは必要ありません。その場合は、この章をスキップできます。

```
[root@xxxx ~]# fdisk -l
```

```
Disk /dev/xvda: 42.9 GB, 42949672960 bytes
```

```
255 heads, 63 sectors/track, 5221 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x00078f9c
```

```
Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/xvda1 * 1 5222 41940992 83 Linux
```

```
Disk /dev/xvdb: 5368 MB, 5368709120 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 652 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x00000000
```

3. 次のコマンドを実行してデータディスクをパーティション分割します。

```
fdisk /dev/xvdb
```

プロンプトごとに「n」、「p」、「1」の順に入力し、Enter キーを 2 回押して、「wq」と入力します。パーティション分割が始まります。

```
[root@xxx ~]# fdisk /dev/xvdb
Device contains neither a valid DOS partition table, nor Sun, SGI or OSF disklabel
Building a new DOS disklabel with disk identifier 0x33eb5059.
Changes will remain in memory only, until you decide to write them.
After that, of course, the previous content won't be recoverable.
```

```
Warning: invalid flag 0x0000 of partition table 4 will be corrected by w(rite)
```

```
WARNING: DOS-compatible mode is deprecated. It's strongly recommended to
switch off the mode (command 'c') and change display units to
sectors (command 'u').
```

```
Command (m for help): n
Command action
e extended
p primary partition (1-4)
p
Partition number (1-4): 1
First cylinder (1-652, default 1):
Using default value 1
Last cylinder, +cylinders or +size{K,M,G} (1-652, default 652):
Using default value 652
```

```
Command (m for help): wq
The partition table has been altered!
```

```
Calling ioctl() to re-read partition table.
Syncing disks.
```

fdisk -l コマンドを実行して、新しいパーティションを確認します。新しいパーティション xvdb1 が作成されています (以下の /dev/xvdb1 など)。

```
[root@xxx ~]# fdisk -l

Disk /dev/xvda: 42.9 GB, 42949672960 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 5221 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x00078f9c

Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/xvda1 * 1 5222 41940992 83 Linux

Disk /dev/xvdb: 5368 MB, 5368709120 bytes
255 heads, 63 sectors/track, 652 cylinders
Units = cylinders of 16065 * 512 = 8225280 bytes
Sector size (logical/physical): 512 bytes / 512 bytes
I/O size (minimum/optimal): 512 bytes / 512 bytes
Disk identifier: 0x33eb5059

Device Boot Start End Blocks Id System
/dev/xvdb1 1 652 5237158+ 83 Linux
```

次のコマンドを実行して、新しいパーティションのフォーマットを行います。フォーマットの所要時間は、データディスクのサイズによって異なります。ext14 など、他のファイル形式を選択することもできます。

```
[root@xxx ~]# mkfs.ext3 /dev/xvdb1
```

次のコマンドを実行して、新しいパーティション情報を書き込みます。

```
[root@xxx ~]# echo '/dev/xvdb1 /mnt ext3 defaults 0 0'>> /etc/fstab
```

完了したら、`cat /etc/fstab` コマンドを実行して情報を確認します。

注意: Ubuntu 12.04 では、バリアがサポートされていません。そのため、このシステムでの適切なコマンドは次のようになります。

```
[root@xxx ~]# echo '/dev/xvdb1 /mnt ext3 barrier=0 0 0'>> /etc/fstab
```

データディスクを別々のフォルダーにアタッチするには (たとえば、Web ページを別々に保存する場合など)、上のコマンドで `/mnt` の部分を変更します。

mount /dev/xvdb1 /mnt コマンドを実行して、新しいパーティションをアタッチします。次に、**df -h** コマンドを実行してパーティションを確認します。データディスク情報が表示されたら、アタッチは成功しており、新しいパーティションを使用できます。

```
[root@xxx ~]# mount /dev/xvdb1 /mnt
[root@xxx ~]# df -h
Filesystem Size Used Avail Use% Mounted on
/dev/xvda1 40G 1.5G 36G 4% /
tmpfs 498M 0 498M 0% /dev/shm
/dev/xvdb1 5.0G 139M 4.6G 3% /mnt
```

注意: ECS では、仮想化ソフトウェア (KVM、Xen、VMware など) のインストールおよびデプロイメントがサポートされていません。

Windowsデータディスクのフォーマット

Linuxインスタンスでデータディスクをフォーマットする場合は、**Linux_データディスクのフォーマットとマウント**を参照してください。

すでにデータディスクをECSインスタンスに接続している場合は、インスタンスにログオンして、データディスクをパーティション化してフォーマットして使用する必要があります。このドキュメントでは、新しいデータディスクを使用して単一パーティションのデータディスクを作成し、そのパーティションをフォーマットする方法について説明します。ビジネスニーズに応じて、データディスク上に複数のパーティションを作成することもできます。

警告：

- ディスクパーティショニングとフォーマットは危険度の高い操作ですので、慎重に進めてください。このドキュメントでは、新しい空のデータディスクを処理する方法について説明します。データディスクにデータがある場合は、データ損失を避けるために、データディスクのスナップショットの作成があることを確認してください。
- ECSは、システムディスクではなく、データディスクのパーティション分割のみをサポートします。サードパーティツールを使用してシステムディスクを強制的にパーティション分割すると、システムクラッシュやデータ損失などの不明なリスクが発生する可能性があります。

前提条件

個別に購入したデータディスクの場合は、パーティショニングと書式設定の前にデータディスクのアタッチ

を実行する必要があります。

インスタンスと共に購入されたデータディスクは、添付されずにパーティション分割およびフォーマットすることができます。

手順

この例では、64ビットのWindows Server 2012 R2で20 GBのデータディスクをパーティション化してフォーマットする方法について説明します。

インスタンスに接続。

Windows Serverデスクトップで、[スタート]アイコンを右クリックし、[ディスク管理]を選択します。フォーマットされていないデータディスク（この例では**Disk 2**）は、オフラインステータスです。

Disk 2の周りの空白部分を右クリックし、コンテキストメニューで**オンライン**を選択します。



オンラインになった後、**Disk 2**のステータスは**Not Initialized**と表示されます。

Disk 2の周りの空白部分を右クリックし、コンテキストメニューで**ディスクの初期化**を選択します。



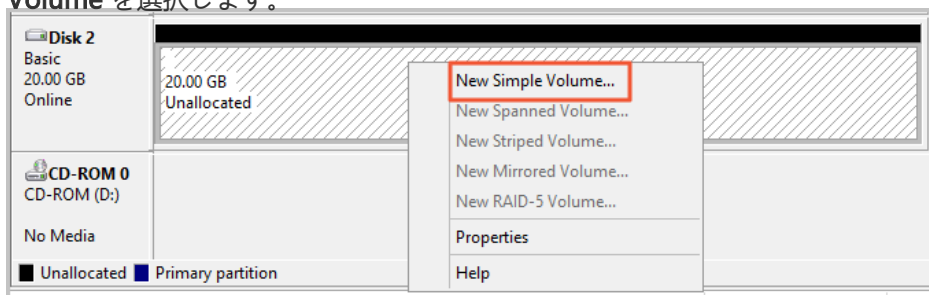
ディスクの初期化ダイアログボックスで、**ディスク2**を選択し、パーティション方法を選択します。

- **MBR** はまだ最も一般的なパーティショニング方法です。ただし、この方法では、最大2TBのパーティションサイズと最大4つのプライマリパーティションの作成のみがサポートされています。ディスクを4つ以上のパーティションに分割する場合は、プライマリパーティションを拡張パーティションとして使用して、そのパーティションに論理パーティションを作成する必要があります。

- **GPT** は、以前のバージョンのWindowsでは認識されない新しいパーティション分割方法です。GPTがサポートできる最大パーティションサイズは、オペレーティングシステムとファイルシステムによって決まります。Windowsオペレーティングシステムでは、GPTは最大128のプライマリパーティションの作成をサポートします。

この例では、MBRパーティショニング方法を選択し、**【はい】** をクリックします。

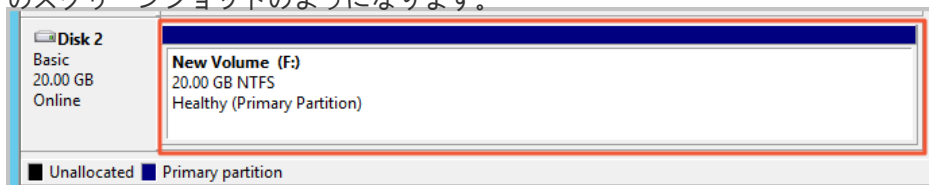
Disk Management ウィンドウで、**Disk 2** の **Unallocated** 領域を右クリックし、**New Simple Volume** を選択します。



新しいシンプルボリュームウィザードで、次の操作を行います。

- 【次へ】** をクリックします。
- ボリュームサイズの指定**：作成するシンプルボリュームのサイズを指定します。プライマリパーティションが1つだけ必要な場合は、デフォルト値を使用して、**【次へ】** をクリックします。
- ドライブ文字またはパスの割り当て**：ドライブ文字を選択します（この例では、F）。**【次へ】** をクリックします。
- フォーマットパーティション**：ファイルシステム、アロケーションユニットサイズ、ボリュームラベルなどのフォーマット設定を選択し、**クイックフォーマットの実行とファイルとフォルダの圧縮の有効化**を行うかどうかを確認します。ここではデフォルト設定を使用してください。**【次へ】** をクリックします。
- 新しいシンプルボリュームの作成を開始します。新しいシンプルボリュームが作成されたら、**Finish** をクリックして**新しいシンプルボリュームウィザード**を閉じます。

パーティションのフォーマットが完了すると、**Disk Management** の **Disk 2** のステータスは、次のスクリーンショットのようになります。



このPCの新しいドライブ **New Volume (F:)** を見るができます。これは、データディスクが使用できる状態になったことを意味しています。